

輪は判らない。

今回は私が一番研究の浅い方面である上に、多忙の爲め大急ぎの起稿であるから、誤脱も定めて多い事と思ふ。いづれ他日訂正の折もあらうから、夫れ迄は役員の方々並に讀者諸彦のお宥を願ひ度いのである。(大正十年二月二十日稿了)

紹介

●日本風俗全史卷一(結髪化粧史上冊)

文學士 江 馬 務著

我國風俗に關する史的研究の必要なるは言ふまでもなき事ながら其關係する所頗る廣汎に亘るを以て容易に手を下し能はざりしが今や篤學精勵なる江馬學士の日本風俗全史の連續出版を見るに至りしは學界のために大に慶賀すべき所なりとす本書は三浦博士の序文にも見ゆる如く從來の風俗史が社會全般の風俗を各時代に列擧せしに對して史上の事項に橫斷的に記述したる所に其特長を認むべく今回公けにせる結髪化粧史は全史出版の壯舉の第一歩たり

先づ第一編序説には風俗史に關する一般的記述をなし固有風俗時代、唐風模倣時代、國風發達時代の三編に大別して各編首に時代の概觀を述ぶ例せば、二編固有風俗時代第一章先史時代に於ては先史民族として存在せし土蜘蛛蝦夷の如何なる人種なるやに關しては考古學者間にコロボツクル説及アイヌ説ありて未だ一定せざれども後世の傳説を引用して其真相を明かにすべしとて量行紀四十年の條によりて彼等穴居の遺跡は堅穴として殘存すとし貝塚發見品によりて其髮風化粧を徵し得べしとせるの類なり而して各編を髮風、容飾、化粧等の諸節に分ち并に髮、櫛、髻、耳飾、入墨白粉、紅、齒黑等の諸項目に就きて或は考古學者の説を引き或は記紀、風土記、歌謠、嬉遊笑覽、挂林漫錄等により、或は又土偶神像、繪卷物によりて記述せり第三編唐風模倣時代第一章髮風第二節女子の條に一筋垂髮、三筋垂髮、頭上一髻等を神像より説きたるが如きは本書獨特の點たるべし寫眞版十三葉を添ふ菊版一八九頁(定價五、〇〇)京都山本文華堂發行(中村)

●撰進千二百年紀念 日本書紀古本集影 一帖

大正九年は恰も日本書紀の撰上後滿一千二百年に相當せるより東京に於ける日本書紀撰進千二百年紀念會に於ては同年五月二十二日其記念祭典及び講演を催し翌日書紀古本の展觀を行ひたりしが本書は當日出陳せられたるもの、中重なるもの、寫眞七十枚と陳列圖畫六十二部の解説とを收め又芳賀博士「日本書紀に就きて」百鳥博士「東洋史上より觀たる日本書紀」黑板博士「日本書紀撰修の